

JBA NEWS

南カリフォルニア日系企業協会 会報 (月刊)

April 2013
Issue No. 294

CONTENTS

- JBA 事務局移転のお知らせ &
特別ビジネスセミナー…………… 1
特別ビジネスセミナー… 2- 5
「電気自動車と太陽光発電
システム」環境研修会 … 6- 7
ロサンゼルスマラソン
ボランティア2013速報 …… 8
新入会企業紹介…………… 9
各部会からのお知らせ… 10-12

SAVE THE DATE

OC部会主催・大運動会

6月9日(日)

@ Irvine High School
Stadium

第20回 JBA Foundation
Charity Golf Tournament

7月20日(土)

@Tustin Ranch Golf Club

April / May Event Calendar

4/25(木)
異業種交流会(ミキサー)
(企画マーケティング部会)

4/27(土)
マンザナルツアー
(ダウンタウン地域部会)

4/28(日)
大学進学セミナー
(教育文化部会)

5/3(金)
第164回ビジネスセミナー
(企画マーケティング部会)

5/5(日)
サウスベイオリンピック
(サウスベイ地域部会)

Japan Business Association of Southern California

1411 W. 190th St. Suite 220, Gardena, CA 90248
Phone : 310-515-9522 Fax : 310-515-9722

<http://www.jba.org>

Greeting

JBA 事務局移転のお知らせ

JBAは、4月1日より新住所へ移転いたしました。

旧) 1411 W. 190th St. Suite 270, Gardena, CA 90248
新) 1411 W. 190th St. Suite 220, Gardena, CA 90248

上記の通り、Suite 番号のみの変更です。

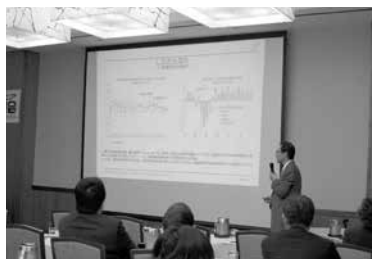
Seminar

企画広報部会

特別ビジネスセミナー

「米国経済の展望と金利為替動向」

去る3月15日、トーランスのミヤコハイブリッドホテルにて、特別ビジネスセミナー「米国経済の展望と金利為替動向」を開催した。当日は、三井住友銀行市場営業統括部NY駐在シニア・エコノミストの森谷亨氏が講演。マクロ経済、政策・政治動向、金融市場等のさまざまな切り口から米国経済の現状と今後の見通しについて考察すると共に、足許で起こっているトピックをベースに、金利為替の動向を解説した。(→次ページに続く)



(→1ページから続く)

企画広報部会

特別ビジネスセミナー

「米国経済の展望と金利為替動向」

米国経済を中心に、世界経済の展望を具体的資料をもとに解説した森谷さん



米国の景気の大きな流れ

2009年にこのセミナーでお話しさせていただいた時は、まだこの先どうなるのかという状況でしたが、最近では少し明るくなってきた部分があります。

景気を大きなところから見てください。アメリカのGDPの成長率を前期比年率の四半期ベースで見ると共に、5年間の移動平均の成長率を見ていきますと、四半期ごとには大幅に上下していますが、5年間の移動平均はそれほど大きくぶれずに推移しています。ところが、2009年のリーマンショック以降の不況では、大きな谷が生じた後、回復のペースが非常に緩やかで、移動平均が0.5%くらいという、過去に見たことがないような低い数字になっています。これは、例えば日本で景気停滞が長引くあまり、期待成長率が下がり、なかなか条件が整っても前向きな動きが出てこないということが起きたわけですが、アメリカでもそういうことが起こらないとも限らないという状況を示しているわけです。ただ、中身を仔細に見てみると必ずしもそうではないようです。

GDP成長率から、在庫、純輸出、政府支出などを差し引きますと、個人消費や企業の設備投資、住宅

投資が残ります。これらは、個人や企業など経済主体が支出する気になって支出しているもので、経済活動の最も基本的部分ですが、これは全体のGDPの動きと比べても、非常に安定して3%成長を続けています。

もう一つ、ISバランス（Investment Saving Balance、貯蓄投資バランス）から見てみましょう。これは大まかに言えば所得と支出のどちらが大きいかを示します。1960年代以降の動きを、民間部門と政府部門を比較すると、だいたい民間部門は所得の方が多く、貯蓄を残している一方、政府部門は支出の方が多く、つまり財政赤字というのがパターンでしたが、09年以降の危機の時には、一斉に民間部門が支出を止めました。収入はあるけれども支出を止めるので、貯蓄が増える。しかし、支出をしないと景気が悪くなりますから、代わりに政府がいっぱい支出をし、過去50年で空前の規模で財政赤字を膨らませて景気を下支えするという、大きな分割き状態が生じました。

近年の数字を見ると、悪いニュースとしてはこの傾向が明らかに方向転換しており、民間部門は少しずつ支出に前向きになり、おかげで政府部門は赤字を縮小しつつあるというトレンドに入ってい

ます。悪いニュースは、まだ通常の状態に戻るにはしばらく時間がかかりそうなことです。ただし折り返し地点は過ぎています。

景気停滞の全体像と調整の動向

そもそもなぜアメリカの経済はこんなにグチャグチャになってしまったのか。どんな経緯を辿っている段階か、あるいは今、どんな問題が存在するのか見てみましょう（p.3の表参照）。

先の景気後退は、まず住宅価格の下落から始まり、その裏側にある非常に質の悪いサブプライムローンの焦げ付きが急増し、ここから金融市場に問題が生じました。資本市場、証券市場では、サブプライムなどを束ねて、それを担保にして発行した証券のプライシングができなくなり、これらを抱えていた、あるいは影の子会社のようなものに投資させ、マーケットメイクをしていた投資銀行が崩壊し、かつこれらに保険を付けリスクヘッジに使っていた保険会社も崩壊するという状況になりました。民間仲介システムが崩壊し、またリスクヘッジができないなら、そのようなリスクは回避するしかないということで、まったく動きが取れない状況になってしまったのです（①）。

銀行市場では、サブプライムローンの焦げ付きが急増すると銀行に不良債権がたまり、貸し出し基準が厳しくなり、普通のローンしか貸さなくなってしまう。これはこれでいいのかもしれませんが、少しエキセントリックなまでに厳しくなったのは事実です。そうすると貸し出しが伸びず、住宅が買われなくなり、住宅価格の下落から始まったものがさらに下落する（②）。

家を買う人には一次取得者もいますが、今住んでいる家を売って新しい家を買う人も相当数いるわけで、今売っている家の価値がどんどん下がってしまうと買い替えられません。また、不良債権が急増すると、差し押さえ物件も急増し、これが市場にスーパーディスカウントで出てくると住宅価格はさらに落ちます。そうするとまた不良債権が増えるのです。ということで、住宅の中で色々な悪いループが生じていたわけです。

次にディレバレッジ、つまり債務圧縮という問題が生じています。銀行はお金を貸してくれない、資本市場は止まっているとなれば、企業がすることは債務を

MIYAKO HYBRID HOTEL
TORRANCE, CALIFORNIA

21381 S. Western Ave.
Torrance, CA 90501
Phone: (310) 212-5111
Fax: (310) 212-5112
www.miyakohybridhotel.com

Two Choices. One Hotel.

Distinctively World-Class. Proudly Green.

Japanese Elegance in the Heart of Downtown Los Angeles

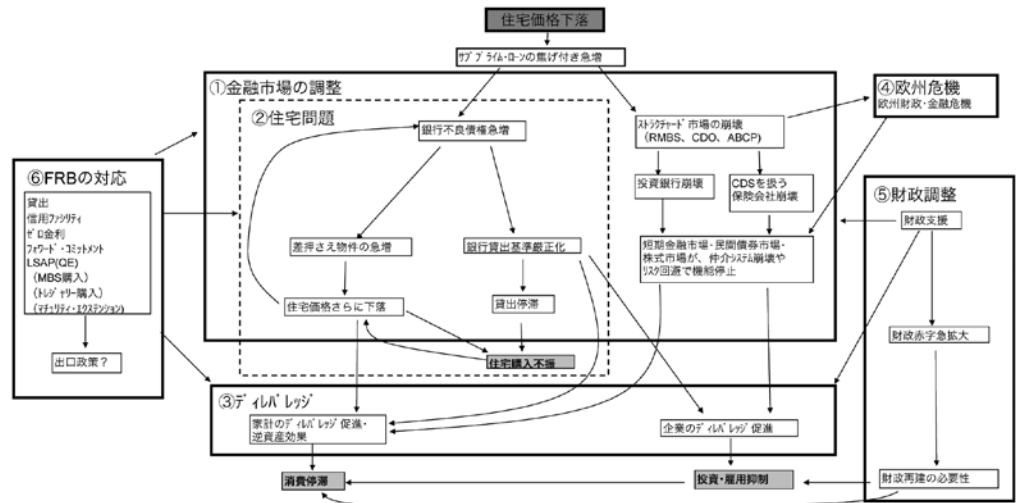
MIYAKO HOTEL
LOS ANGELES

328 E. First Street
Los Angeles, CA 90012
Phone: (213) 617-2000
Fax: (213) 617-2700
www.miyakola.com

減らすことしかなくなってしまう。家計にも同じようなことが起きています。貸し出し基準が厳格化され、かつ資産価値も下落。ということで家計もなるべく借金を減らす動きに出ます。さらに資産価値が減ること自体が、消費意欲を冷やす事態も生じました。こうした事情で、消費も投資も雇用も停滞、抑制されるという動きになったのです(③)。

このほかに④の欧州危機という問題があります。これは必ずしもアメリカのストラクチャード市場の崩壊だけで起きたわけではなく、ギリシャの問題があり、それが起こったところで、EUという仕組みの機能不全が明らかになったなど色々背景があるわけですが、一つのきっかけではありましたが、そもそも大調整の始まりはどこかと言うと、リーマンショックも一つの答えですが、その1年前にパリバショックがあり、パリバの持っている証券などに投資していた子会社のヘッジファンドが崩壊したことから始まり、同じようなことが次々にアメリカでも起こったということもあります。欧州で問題が生じるとアメリカの金融市場も動揺する、というように、ここでもループが起きるのです。

⑤の財政調整に関しては、さきほど言及しましたが民間の需要が落ち込んでいるので、政府がお金を使わないとGDPが縮小してしまう。加えて金融市場の調整のためにも財政支援が行われました。これらは、確かに効果があった部分もありますが、反面で財政赤字を急拡大させることになりました。



今はそれをどう再建していくかという話が行われているわけですが、これがいつまとまるかわからない感じで、フィスカル・クリフだ10年間の赤字削減計画だのともめているわけです。増税が起きるかもしれない、政府支出がどうカットされるかわからない、年金や社会保障費は削減されてしまうのか…と心配になると、やはり消費は停滞しますし、企業としても本格的に投資に打って出るというスタンスはなかなか取りづらい。

⑥のFRBが対応した部分に関しては、現在のところは景気下支えに効いてますが、いつの日か、今の政策から出ていかなければならない。その時に何か起こるかもしれないというのは潜在的なリスクとして、色々と検討されています。

金融市場の調整と市場の安定感

金融市場の調整について、債券市場から見ていきましょう。民

間部門の債権の発行額は、3兆ドル近く発行されていた06年に比べると、現在はその半分くらいです。普通社債などは普通に発行されていますが、民間レベルのMBSである Non-Agency MBS や、Asset-Backed Debt は極端に減っています。Asset-Backed Debt では、Home Equity がごっそりなくなっています。

Home Equity とは、普通の住宅ローンではなくて、住宅ローンが付いてるけれどもさらに担保余力がある場合にその部分に新たに担保を設定して何に使ってもよいローンを提供するものです。Non-Agency MBS や Home Equity に関してはやり過ぎていた部分があったわけで、その腐った部分がなくなり、それ以外は普通に動き始めているのが現在のアメリカの証券市場です。

銀行部門も同じような傾向が見て取れます。銀行の不良債権率は比率は下がってきていますが、い

まだ1990年代前半のクレジットクラッシュと言われた時期と同じくらいはあります。ただし、ローンの種別を見ると、突出して多いのは不動産関係。それ以外の Corporate & Industrial や消費者ローン、クレジットカードはむしろ景気が良かった時よりも不良債権比率は低くなっています。つまり、銀行部門でも不動産関係を除けば、貸し出しの質はほぼ正常化しているわけです。

金融市場全体を、セントルイス Fed が集計している金融ストレス指数で見ると、昨年までは、様々なイベントに対して非常に敏感に反応していましたが、最近はショックに対する動揺が小さくなっています。まだ完全な健康体ではないにせよ、安定感を取り戻しつつある状況だと思われます。

住宅問題の明るい兆し

②の住宅問題に関しては、不動

使わない分まで 払いすぎているませんか?



料金プランは
月額 \$15 から
ご用意!



Galaxy™ Nexus™

アメリカの携帯電話なら DOCOMO USA Wireless™ へ! 御社の携帯電話プランを診断、適切なアドバイスをします。

Mitsuwa
トールズ店内に
サポートデスクも!

●お問い合わせ/お申し込みは

1-888-362-6661

メール la_sales@docomo-usa.com
詳細は www.docomousawireless.com

NTT docomo
NTT DOCOMO USA, Inc.

●表示金額には、契約手数料、各種税金、国際通話など別途ご利用に応じて課金される料金、サービス料などは一切含まれておりません。※Galaxy™はSamsung Electronics Co., Ltd.の商標または登録商標です。※Nexus™はGoogle Inc.の商標または登録商標です。●DOCOMO USA Wireless™およびロゴは、株式会社NTTドコモの商標です。

産担保融資に不良債権が依然多いなどの問題があるわけですが、方向として明らかに良くなってきています。住宅が差し押さえられてしまった人は、最初貸家に移行するので、住宅の着工はまず集合住宅から回復が始まりましたが、最近では一戸建てでも回復が始まってきています。通常、住宅建設業界の楽観度合いは、住宅着工に先行するのですが、今回はその期間が長くなっています。おそらくその理由は、危機の間に建設業界でも統廃合や業界の縮小があり、生産能力が小さくなり、需要があってもなかなか実現しないという状況を反映したものだと思われます。3月8日に出た雇用統計を見ると建設業者で4万8000人の雇用が増えています。足りなくなっている生産能力の増強に動いているのだと思われます。

住宅については循環的にもさすがにそろそろ底を打ってもおかしくはないですし、住宅購入の気運も高まりつつあります。おそらく住宅価格が底を打って上がり始めていることが認識されつつあると同時に、モーゲージ金利に関してもこれからは下がるより上がる幅の方が大きいのではないかとこの警戒感も生じています。そういうなかで住宅購入意欲が高まってきているわけです。

ただ住宅に関しては、いわゆる Shadow Inventories が大量に残っている問題があります。この Shadow Inventories とは、不良債権化していながら、まだ差し押さえられていない物件を指し、いずれマーケットに出てくると予想される在庫です。現在、新規差し押さえが減っていますが、その理由は差し押さえ手続きのプロセスの長期化にあります。この背景には、差し押さえ物件数が多く処理能力が追いついていないことがあります。差し押さえプロセスは州によって色々やり方が異なっており、大きく分けては裁判所の監視下で行う州と民間で行う州があるわけですが、とりわけ前者で処理が進んでいません。そのため、差し押さえにはなっていないけれども、延滞している物件がたまっているというわけです。これが市場

に一気に出てくるとまた価格を下押しをしてしまうことになりま。しかし、業界の意見としては、差し押さえプロセスが遅いのは裁判所がぐずぐずやっているからであって、その環境が急に変わったり、民間で行えるように法律が変わることはおそくない。そうすると Shadow Inventories はずっとシャドーであり続け、リストには載ってこない。一方、リストに載っている在庫は非常に逼迫しており、価格は上がっている。この状況は変わらないという見方が一般的になりつつあるようです。

ただ、必ずしも処理が進まないから差し押さえが減っているというばかりではなく、前向きな差し押さえ抑制要因もあります。HARP 利用のリファイナンス増加です。これは政府のイニシアチブで住宅ローンが水に浸かっている人でも借り換えられるようにするというプログラムです。それによって彼らの借り換えが結構活発化し、今では借り換え全体のうち、HARP を使った人の割合は2～3割程度になってきています。

もう一つの前向きな話としては、ショートセールが増えていることがあります。ディストレスト物件の処理法にはフォークロージャーとショートセールの2種類がありますが、フォークロージャーは差し押さえで、ショートセールは、債権者と債務者が交渉をし、住宅の担保価値を超える部分のローンについては返却を免除し、担保価値の部分だけを返してくれればよいとして住宅を売る方法です。差し押さえプロセスは長期化していますので、時間がかかっているうちに3割くらいしか回収できず、最終的な金融機関の損失が払われなくなってしまう。しかし、ショートセールだとそこまで損失が大きくなりません。かつては銀行もあまり損失を確定させたくなかったのか、あるいは確定させる余裕がなかったのか、あまり活発には行っていませんでした。ところが、最近ではショートセールを活発化させるといいのではと FRB も考え、プロセスのガイドラインを出すなどしてこれを後押ししたこともあり、急に件数が増

え、今ではディストレストの4分の1がショートセールです。

フォークロージャーの立て札が立つと、コミュニティごと土地の価値が下がることがこれまで結構あり、住宅価格の下落は拍車をかけたこともあったのですが、ショートセールの場合は立て札が立ったりしませんので、その家だけの問題になり、コミュニティ全体の価格は下がらないということも起こってきているわけです。

これらのことから、住宅価格が上がり始めているということは最近の共通認識になり始めています。

住宅価格が上がり始めると、次にはエクイティーを使った消費刺激が来ると期待したい。なかでも、住宅ローンの返済が進んでいる人などは、これ以上価格が下がらないと思えば、エクイティーを使おうと思いついても不思議はない。しかし、住宅関連業界の人に話を聞くと、アメリカで家を買ってローンを完済している人は高齢者が多く、エクイティーを使ってまで新しい物を買うインセンティブはあまりない。一方、消費意欲の高い、比較的若い世帯は、現在要求されているようなクレジットスコアや20%のダウンペイメントが満たせないなど、住宅購入が難しくなっています。そういう層が住宅を買えるようになり、さらにエクイティーがそれなりの状況になるとエクイティーを使った消費が出てくるかもしれませんが、それはまだ先のことではないかという見解が多かったです。

家計のディレバレッジと 欧州危機、財政問題の影響

③の家計のディレバレッジですが、債務が消費を抑制する経路は2つほどあります。一つは月々の返済が重くてなかなか消費に回せない、もう一つは消費をするより、早く債務を減らしたいという考え方向になってしまうことです。返済負担の可処分所得比の推移を見ると、現在の水準は何十年前と同じ水準に戻ってきていますので、借金を返すのがつらいので消費に回せないという状況ではたぶんもうない。債務残高自体の可処分所得比は、随分大きいとはいえ、過去

30年くらいのトレンドラインに戻ってきています。ですから、かなり終盤に近づいているという感じがします。

借り入れ意欲も非常に緩やかですが回復しています。耐久消費財購入意欲も上を向いて来ており、これも続くと予測されています。消費者部門のディレバレッジについては問題はかなり軽くなっており、消費者としてはそれなりに前向きに消費をする気分になってきている。もう借金返済の妨げを見ているわけではないという形にはなっています。

④の欧州危機に関して、考えられる影響としてはヨーロッパの銀行を介した金融仲介が小さくなっており、世界のお金の回りが悪くなっています。欧州系の銀行はラテンアメリカと活発取引をしていますので、ひょっとすると欧州危機がラテンアメリカに飛び火を起す可能性もなきにしもあらずです。アメリカに対するインパクトという面では、まず輸出先としてはアジアやアフリカなど各地域に均等に分散されていますので、ヨーロッパだけがダメになる状況では持ちこたえられるでしょう。

ただ貿易でなく、アメリカの多国籍企業の子会社が海外のどこで売り上げを上げているかを見ると、ヨーロッパが52%と極めて高くなっています。欧州の不況、財政緊縮が続くと、多国籍企業の海外売り上げにはある程度インパクトが生じる可能性は見ておく必要がある。欧州では現在では金融面で色々なファシリティーが立ち上がっていて、市場がまた急に止まってショック状態が広がる感じではなく、対処ができるようになってきている。ただ、財政緊縮が景気を圧迫する状況が長く続くことは覚悟しておく必要があるでしょう。

これらの見通しが明るくなっている一方で、財政を巡る問題はどのようにもなっていません。12年末のフィスカル・クリフは、とりあえず回避されましたが、中期的な財政赤字削減をめぐる議論は、全然決着がついていません。これが消費者のコンフィデンスに悪影響を与えるわけです。規模は縮小されたとはいえ、増税自体は実施され

ていることに加え、3月1日から始まった一律歳出強制削減など、当面の財政面からの景気下押し圧力は無視できません。全体として、アメリカ経済のダイナミズムのコアの部分は徐々に回復しており、成長率加速の基盤は整いつつあるといえますが、財政からの下押し効果は今年はまだ続くと考えていいでしょう。財政からの下押し圧力は本年前半が大きくなります。その一巡を待って状況が好転すると見えています。年後半には、成長率は2%台後半くらいになってもおかしくないと思います。

為替の動きと 背後のイメージ

為替の各国の実行レートをを見ると、ドルは00年代は下がっていますが、09年の危機の時にリスク回避が起き、その危機はアメリカで起きたにもかかわらず世界中に投資してあった、アメリカのお金が国内に戻るといった動きが生じ、一回ドル高になりました。その後はFRBの積極的な緩和政策により下がり、足許は少し上がってきています。

ユーロはアメリカドルが下がっていく間ずっと強くなり、この間ユーロは基軸通貨の一翼を担うという感覚があったわけですが、欧州危機後はぐっと下がっています。アメリカで混乱が起きると、ヨーロッパにも影響があるわけですが、日本円に関してはあまり影響がなく、危機の時には逃避通貨として円が強くなり、そのまま強い推移を続けていましたが、ごく直近になって落ちたという動きです。

為替相場場で売買する人たちは、この先世界はどう展開していくのかを考えながら行っています。リーマンショック後に広がった彼らのビューは、おおよそ以下のようなものだったと思われます。つまり、そもそも金融危機はアメリカ一国が世界中の需要を吸収しながら大きくなり、それがいき過ぎてバブルが発生して、それがついに崩壊したことで起こった。この先は一国ではなく、牽引力を分散し、グローバルに成長していく形に向かうのではないか。そのためには途上国が今までのように外需

で自国経済を持ち上げるのではなく、内需もそれなりに拡大させていくことが必要だというものです。これを為替相場に翻訳すると、ドルが安くなって途上国通貨が高くなるということになります。

もう一つ、ファンダメンタルズ面では、リーマンショックが終わった後の先進国は大きなショックを受けており、その調整でしばらくぐずぐずするであろう。その間、世界経済の中では、途上国の成長率が高くなる。これは途上国への投資を促し、通貨は先進国に比べて強くなっていくだろうと。また、主要先進国の中では、日本はほかの国よりも物価の上昇が緩やかであるために、円が強くなる。また金融緩和への動きはアメリカ、EUに比べて消極的に見え、相対的に円が強くなりやすいという事情もある。

加えてリーマンショックが終わった後の世界は、アメリカもヨーロッパも日本のようにむずかしい局面に入る「日本化」が起きるのではないかと懸念がありますが、日本はすでに日本化を終えており、それ以上に悪いことは起こらない。要は、ドルもユーロも下がるのではないかと懸念の中で、相対的に円が強くなりやすいという見方です。

3番目に基軸通貨性を巡る問題があります。ドルは00年代の危機の前から、ユーロという有力な基軸通貨の対抗馬が出てきて、ドルだけで外貨準備を持つのではなく、ユーロにも分散させていこうという傾向が生じ、ドル安傾向が続いていました。かつ、ドルはリーマンショック後は下がっても誰も文句を言わず、当局も下落を容認していました。そこで、ドルからユーロへの資金シフトが起りかけていたところにユーロ危機が起り、そもそもユーロという通貨は存続できるのかという話にまで発展し、ドルもダメ、ユーロもダメ、じゃあ何で外貨準備を持つのかという話になったわけですが。それに代わる通貨は全然ないわけで、とりあえず分散させておくかと、日本円も買われている。そもそもどこの通貨も決定的な力がないということ、金を買われて金の値段が上

がったりもしているわけです。

ところがごくごく最近を見ると、色々な面で上記のような見方に変化が見られます。たとえば、現在、米国の経常赤字収支は縮小し、中国の経常赤字も縮小するなど、一極化の是正はかなり進んだ感があります。また、リーマンショック後に世界経済を牽引した途上国ではインフレ圧力が生じて金融を引き締めざるを得なくなっており、途上国のみで世界を牽引するのはやや限界があることも判明しつつあります。基軸通貨性の問題についても、途上国は少しドル運用を戻し、ユーロ運用を落とし、それ以外の通貨は横ばいという動きが見えます。なんだかんだと問題の震源地だったアメリカですが、それなりに調整が進み、ヨーロッパに比べても状態がいいのではという見方が戻って来ているということだと思います。

アベノミクスと 円の行方

こうした状況のなかで、ファンダメンタルズ的な円高見通しに変更を迫る動きとして登場したのがアベノミクスです。アベノミクスの「3本の矢」は、大胆な金融政策でデフレ脱却、機動的な財政政策で弱い景気を下支え、民間投資を喚起するための成長戦略による中長期的な潜在成長率を高めることです。スタンスがスッキリしていますので、海外の市場参加者にとっては理解しやすく、政策の継続性についてあまり疑問を持たれていません。ただし、日本の政府債務残高はギリシャすらかわいく見えてしまうくらいですから、その中でさらに支出を動かし、中期的に財政の持続性を担保できるのかという点には疑問を呈する向きもあります。これに関しては、先々の成長率の高まりについてマーケットが納得できる例が出てくるかどうかにかかっています。

この円安がどのくらい持続するのか、あるいは適当なところで止まるのかを判断する上で大事な日本円という通貨の信任の問題ですが、例えば財政収支、政府債務残高、経常収支を、日、米、ユーロ圏で比べると、単年度の財政赤字は日

本が一番大きい。日本の政府債務残高は非常に高いにもかかわらず円が強くなり続けていたということは、円という通貨、日本政府の財政運用能力、あるいは円の価値について、日本がマーケットの信任を受けていたと解釈していい。

これには経常収支が黒字を続けていたことがあります。つまり所得よりも支出が少なく、貯蓄がたまっていた。日本は政府債務増加分をすべてを国内の貯蓄でまかなうことができている、その上でさらに資本を海外に輸出しているという形です。ですから、余力はあると言われていました。ただ足許で黒字が縮小してきていますし、さらに東日本大震災があり、原発が止まって以降、エネルギーの輸入が急激に増え、最近では時々経常収支が赤字になっています。

もっと長い視点で話をすれば、高齢化社会が急激に進んでおり、お金を貯めていく世代よりも貯めた貯蓄を取り崩す世代が大きくなっていく流れになっています。ですからこの状態をいつまで保てるのが次に出てくる問題です。この点から見ても、アベノミクスの3本目の矢である、成長政策でどういうものが出てくるかによって、円安がちょっと違った種類の円安、つまり円という通貨の信認が疑われることによって生じる円安に変わってしまうリスクがあります。これはすぐに起こると思いませんが、いつ起こるかかわからない面があります。

逆に、日銀の新総裁らがマーケットが期待する金融緩和強化スタンスを出さなかった場合には、円安傾向が止まるおそれもあります。このあたりは、アベノミクスが結構網渡り的な側面を持っていることを感じさせます。日銀が金融緩和を強化し、一方である程度リアリティーのある成長政策が出てくる。そうなれば、日本の将来に関して強気になった人が円に投資するというような動きが大きくなり、それがあがる程度のところまで円安に歯止めをかける。それにより、100円か、それを少し超えるくらいのところで、安定するのがベストケースなのかなという感じがいたします。

企画広報部会

「電気自動車と太陽光発電システム」環境研修会

去る3月14日、企画広報部会の主催により、「電気自動車と太陽光発電システム」環境研修会が開催された。サイプレスの北米三菱自動車を会場に約30名の参加者が集まり、前半は電気自動車の現状と課題や太陽光発電システムの導入メリットなどが説明された。後半は太陽光発電パネルや装置を実際に見たり、電気自動車に試乗したりと、メリハリのある収穫の多い研修会となった。



説明会の最初に挨拶をする北米三菱自動車の横澤社長

を開始してからあっという間に定員の30名に達し、40名近くの方がウェイトングリストに名を連ねていた。環境にやさしく燃料コストも抑えられる電気自動車、そして企業や家庭で導入することで環境への配慮に加えて電気代を抑えるメリッ

トがある太陽光発電、どちらも非常に関心を持たれていることがうかがえる。

当日は前半に座学、後半に電気自動車の試乗や充電のデモと



電気自動車の現状や課題を解説した北米三菱自動車の児島さん

いう2部構成。参加者を前に、まずはJBAの米本恭庸企画広報部会長、北米三菱自動車の横澤陽一社長から簡単な挨拶が行われた。

その後、北米三菱自動車の児島史典さんから電気自動車を開発・販売する意義、販売・普及状況、米国の自動車業界に対する環境規

制、さらに普及していくための今後の課題などについて説明された。一度の充電での走行距離が十分でないこと、充電施設の数もまだまだ多いとは言えない

など、普及に向けて課題はあるものの、今後の新たな自動車の可能性に参加者はみな、真剣に耳を傾けた。

続いて三菱電機の島田直人さんから太陽光発電システムについての基礎知識や米国における太陽光発電の動向、導入事例などが紹介された。企業が導入する



実物の太陽光発電パネルも用いながら軽妙な話術で太陽光発電のメリットを語った三菱電機の島田さん

ことでコスト上のメリットも大きいことから、こちらもまた参加者一同、高い関心を持って聞き入っていた。

電気自動車の試乗に 参加者一同、目を輝かせる

座学の後は建物の外に出て、3グループに分かれ、グループごとに実際の太陽光発電装置を見ながらの同システムの説明、電気自動車の試乗と充電のデモが行われた。

太陽光発電においては、実際、屋根の上にもどのような形で太陽光発電パネルが取り付けられているかを見た後、それ以外の装

前半は電気自動車と 太陽光発電について座学

3月14日の午後1時、サイプレスの北米三菱自動車にて、「電気自動車と太陽光発電システム」環境研修会が行われた。石油に代わるエネルギー資源として昨今注目されている電気だが、今回はその電気のみを動力源として動く電気自動車、そして今後発電の方法としてますます注目されていくであろう太陽光発電システムについて、それぞれ北米三菱自動車、三菱電機から説明が行われた。この研修会、実はかなりの人気で、参加者募集

21241 S. Western Ave., Suite 200
Torrance, CA 90501
Tel: (310) 320-2700 Fax: (310) 320-4630
✉ sboffice@knllp.com

http://www.knllp.com

plante moran
ALLIANCE

**Kakimoto
Nagashima**
LLP
Certified Public Accountants
Consultants

日本人スタッフによる信頼できるサービス

会計監査・会計全般
税務全般(企業・個人)
会計アウトソーシング
コンピューターコンサルティング
経営コンサルティング



北米三菱自動車の広い駐車場でされた試乗会。みな走り終わった後はその独特な乗り心地に満足して車を降りた



いよいよ試乗開始！当日は4台の「i-MiEV」が用意され、参加者全員に試乗する機会が与えられた



太陽光発電関連の装置を前に、各種機器がどのように機能するのかを説明する島田さん



試乗する前に、同車の特徴について解説する見島さん。コンパクトカーながら、車内は非常にゆったりとした広さを持つという点もアピールした



電気自動車の充電方法について、実際の充電器を用いながら解説するナカモトさん。参加者も興味津々で、さまざまな質問が飛び交った

置がどのように働き、電力が供給されるのかなどについて島田さんが説明した。

次に、電気自動車の充電デモが、北米三菱自動車のジョン・ナカモトさんによって行われた。電気の充電には満タンまでに22時間もかかるものから7時間程度で済むもの、さらに30分程しかかからない急速充電もあることを説明。そのほか、充電インフラが徐々に拡大しつつあることについても言及した。

最後はこの日の目玉イベント、三菱自動車の電気自動車「i-MiEV」の試乗会が行われ、参加者はその乗り心地を実際に体感した。試乗前の説明では、ギアにはスピードを重視したモー

参加者の声



Satoh Brothers International Inc.の佐藤さん。「工場や倉庫など電気代がかかる施設であれば、太陽光発電を導入するメリットは大いにあると思いました」



Metal One America, Inc.のギャーさん。「i-MiEVは、乗ってみると本当に普通のカリフォルニア車と変わらない運転のフィーリングでびっくりしました！」



CBRE, Inc.の藤原さん。「電気自動車がハイブリッド車とどう違うのか興味がありましたが、乗り心地の違和感は全然なく、素直に購入したいと思いました」

ドや、回っているタイヤの力を利用して走行しながら充電する機能を強化するモードなどがあることなどが説明されたが、普通の自動車とはまったく違ったこの機能に、みな目を輝かせた。

試乗においては、電気だけで動いているとは思えない十分な加速力、そして電気自動車ならではの静かな走行音などに驚きの声を上げる参加者も目立った。以上をもって本イベントは終

了した。今後ますます普及していくであろう電気自動車、そして太陽光発電システムの現状を知ることができ、参加者たちはみな満足した表情で会場を後にした。

自動車リースは
アメリカでクレジットが無いと出来ないと思いませんか???

- ソーシャル・セキュリティ番号がなくても、または申請中でも OK!
- 全米どこでも OK! どんな田舎でも、都会でも OK!
- どんな車種でも OK! シビック、カローラ、カムリ、アコード、などの日本車、アメリカ車、ヨーロッパ車、何でも OK!
- リース期間は1年から OK!
- 15ヶ月とかの変則月数でもリース可能です。
- リース料は契約期間が長くなるほど安くなります。
- リース終了後は月極めで延長も可能です。
- 納車は注文からわずか1週間ほど可能です。
- 自動車保険の手配もお任せ下さい。

いえ、**出来るんです**
どなたでも、全米どこの町でも OK!

お気軽に電話または e-mail でお問い合わせください。

電話：213-621-7775
担当は、大橋：ohashi3@pacbell.net
又はゆきまさ：yukimasa@pacbell.net

朗報 カリフォルニア州の皆さんには、格安中古車リースもありますので、在庫車種をお問い合わせください。

*各種情報はウェブサイトでも、ご覧になれます。
www.LaJapaneseAuto.net

親切で安心して任せられる 33年の実績信頼 小東家で1980年創業

LOS ANGELES JAPANESE AUTO
810 E. 1st St., Los Angeles, CA 90012 • Tel:(213) 621-7775 • Fax:(213) 687-0909

現在このリースプログラムを三菱電機社、NEC社、PANASONIC社など各企業の皆様に全米でご利用いただいております。

企画広報部会

ロサンゼルスマラソン ボランティア2013速報

去る3月17日、第28回ロサンゼルスマラソンが開催されました。JBAでは今年も有志を募り、23マイル地点の公式給水所でボランティアを行いました。暑過ぎもせず寒過ぎもしない絶好のマラソン日和となったこの日、JBA会員・家族ボランティア100人に、一般ボランティアの総勢150人が、ランナーたちに絶え間ない声援を送り、完走をサポートしました。



朝早くからご苦労さまでした！

まだ日の上り切らない午前7時30分の集合時間前から、23マイル給水地点のJBAテントに続々と集まり始めたボランティア。ランナーたちに配る水やスポーツドリンクをトラックから積み降ろし、早速、給水準備を始めました。

リーダーの指示の下、アンパンやオレンジ、バナナをひと口サイズにカット。スポーツドリンクの粉を水と混ぜ、カップに次々と注いでいきます。

警察車両に続いて、いよいよランナーが登場。最初はウィールチェア参加者が通過。あまりの速さに水を渡す時間はまったくありません。続くトップランナー



子供たちも真剣です。オレンジは喉が乾いたランナーに大評判

たちも短距離走並みのハイペースながら、数人が水を掴んで、颯爽と走り過ぎます。水を取ってもらえたボランティアからは思わず歓声も。そのうちに、市民ランナーたちも給水地点に到着。水やスポーツドリンクはもちろんのことですが、オレンジやヤクルトも大好評。日本人ランナーたちだけでなく、アメリカ人ランナーも好奇

心いっぱいアンパンをつまんで走って行きました。

なかでも人気はペインリリーフスプレー。23マイルというゴールを目前にした地点では足や腰に痛みを抱え始めているランナーも散見されましたが、足を引

きずって歩いていたランナーも、スプレーで痛みが軽減されたのか、再びゆっくりと走り始めました。

苦しそうなランナーたちに、「頑張れ！」「あと3マイル！」と声をかけると、疲れているはずの彼らから「サンキュー」と満面の笑みが返ってきます。その声に励まされるように、ボランティアの皆

さんも、水を渡し、オレンジを差し出し、声をかけ続けました。

ボランティアの皆さん、おつかれさまでした。また、来年もよろしくお祈りします。



ペインリリーフスプレーは2本使用で、素早くランナーを癒します



箱いっぱいのオレンジやミカンを手早く切っていきます



「絶対完走できる！」と沿道から熱い応援を送ります

参加者の声



Ernst & Young LLP の伊藤三郎さん一家
「今年で4回目の参加です。ランナーに、直接水を手渡しできるのが面白いと、子供たちが毎年楽しみにしています」



Liner Grode Stein Yankelovitz Sunshine Regenstreif & Taylor LLP の光永眞久夫人の杏子さん
「自分が苦しいなかでもボランティアにありがとうと言ってくれるランナーの心の温かさに感動しました」



Sumitomo Electric USA, Inc. の森上英明さん一家
「友達の応援がから初めて参加しました。子供たちは水をランナーに渡す回数を競っていました。だんだん増えて、いい思い出になりました」

マラソンボランティア
協力企業

Hisamitsu America, Inc.
Yakult U.S.A., Inc.

Yamazaki Baking Co., Ltd.
Yoshinoya America, Inc.

*来月はJBA会員企業ランナーの皆さんのタイムをご紹介します。完走タイムをぜひJBA事務局の森 (mori@ba.org) までお知らせください。

Alps Logistics (USA), Inc.

■業務内容

同社の親会社である、アルプス物流は、1964年に設立され、現在、電子部品の運送、保管、フォワーディング等のサービスを一環して提供する「総合物流企業」である。電子部品メーカーとセットメーカーを結ぶ物流ネットワークをベースに、電子部品の多彩な「物流個性」を捉えたサービスを通じて、在庫の圧縮、リードタイムの短縮など、顧客の生産革新・物流革新のニーズに応えている。



小川さん

90年代半ばからは日本国外にも進出。2002年にロサンゼルスに同社が設立された。ますますグローバル化、高度化するニーズに対応し、同社は物流ネットワークの拡充を進めると共に、現場力・人材力を高めることにより、顧客の物流課題へのソリューション提案力のさらなる強化を図り、最適物流構築のベストパートナーを目指している。

■JBA入会動機

「会員企業の方からご紹介をいただき入会を決めました。このチャンスを活かして地域の役に立つことを目指すと共に、JBAを通してほかの日系企業と交流・親交を深めたいと考えております」(社長の小川さん)

DATA

住所: 2012 Abalone Ave. Unit C
Torrance, CA 90501
☎ 310-618-1220
FAX: 310-618-2091
Web: www.alps-logistics.jp
責任者: 小川弘一(社長)
従業員数: 34人
他の営業拠点: 日本、中国、メキシコ、韓国、マレーシア、ドイツ

Euler Hermes

■業務内容

Allianz 親会社として1893年に設立された同社は、世界最大の信用保険会社である。36%の高いマーケット率と緻密なリスクデータベースにより、世界55カ国以上で、5万7000社以上の企業クライアントに200カ国以上の取引先との売掛債権を保護する取引信用保険を提供してきた。



池田さん

同社は、国内外、会社の規模や業界にとらわれず、取引先を常に与信審査・管理し、予期せぬ倒産や支払い延長の際にはすみやかに保険金を支払う仕組みを取っている。これにより、顧客のキャッシュフローの維持、与信管理体制の強化、債権管理業務の経費削減、売掛債権の保全、不良債権の完全削減をサポートする。さらに世界中のアンダーライター(与信審査員)から新規顧客の信用リスクに対する明確な分析を受けることにより、顧客の与信管理パートナーとして、事業拡大をサポートしている。

■JBA入会動機

「日系企業の皆様には、信用保険の概念はあまり馴染みがありません。1年ほど前より売掛金補償・与信管理について日系社会に対する広報活動を行ってきた中、多くの素晴らしい日本人ビジネスパーソンと出会い、今後より一層多くの方々と長いお付き合いができればと入会しました」(Agentの池田さん)

DATA

住所: 3011 Townsgate Rd. Suite 130
Westlake Village, CA 91361
☎ 213-545-6348
FAX: 818-226-5801
Web: www.eulerhermes.us
責任者: 池田メグ(Agent)
従業員数: 約60人
他の営業拠点: 世界55カ国

NHK Intex Corporation

■業務内容

同社は、世界最大のばねメーカーである日本発条(NHK Spring)の関連会社で、北米における営業窓口である。グループ会社の製品である、自動車関連部品とゴルフのシャフトを、世界各国に広がる関連会社より輸入し、販売している。



吉田さん

常に変化する市場の要求に対して、変化を的確に捉え、信頼される商品・サービスを提供することにより、顧客の期待と信頼に応えることをモットーとする。

2011年6月にはシカゴより南カリフォルニアへ移転。今後も常に新しい視点で思考し、好奇心・挑戦心を持って時代の流れを機敏に捉え、顧客に満足と感動をしてもらえようという独創的なサービスを提供していく。

■JBA入会動機

「南カリフォルニアにて他社の皆様との交流を深めるために今回入会させていただくことにいたしました。宜しくお願いします」(Directorの吉田さん)

DATA

住所: 2720 Loker Ave. West Suite A
Carlsbad, CA 920010
☎ 760-918-9600
FAX: 760-918-9696
Web: www.nhkintex.com
責任者: 吉田明夫(Director)
従業員数: 5人



FDA・各種規制対応

- FDAコンサルティング(食品、化粧品、薬品、医療機器、福祉機器、放射線、動物)
- EPA, UL, CE, VOA, AAFCO他各種登録

米国進出事業企画

市場調査、販売ネットワーク構築、日米間M&A、合弁事業、米国撤退業務引継ぎ、事務所貸出



Phone: (310) 538-3860 email: info@globizz.net

お問い合わせは飯田哲平迄。

1411 W. 190th St., Toyota Plaza #120, Gardena, CA 90248, U.S.A.
(株) グロービッツ www.globizz.net

企画広報部会

異業種交流会 ミキサーを開催

来たる4月25日(木)、午後7時から9時まで、トーランスのドイツ村、「Alpine Village」(833 W. Torrance Blvd., Torrance)にて、異業種交流会(ミキサー)を開催します。今回も新入会企業獲得キャンペーンを継続し、非会員企業の方の参加費を会員と同額の20ドルにしています。お知り合いでJBAに興味をお持ちの方にお声を掛けてご参加ください。

申し込みはEメールにて、JBA事務局の森(mori@jba.org)まで。

ダウタウン地域部会

マンザナール収容所跡慰霊祭 バスツアーのお知らせ

来たる4月27日、マンザナール収容所跡慰霊祭への参加バスツアーを開催します。マンザナールは大戦中に多くの日系人が収容された地の一つで、毎年4月の最終土曜日に慰霊祭が行われ、民族や世代を越えて、多くの人がこの地に集います。バスでの日帰り強行軍ですが、慰霊祭に参加し、米国社会における日本人について考えてみませんか。

対象はJBA会員と家族。参加費は大人20ドル、小学生以下15ドル。

申し込みはEメールにて事務局の森(mori@jba.org)まで。

新入会企業

Alps Logistics (USA), Inc.
2012 Abalone Ave. Unit C
Torrance, CA 90501
☎ 310-618-1220

Euler Hermes
3011 Townsgate Rd. Suite 130
Westlake Village, CA 91361
☎ 877-901-3224

Take One Systems, Inc.
1447 W.178th St. Suite 304
Gardena, CA 90248
☎ 310-217-9010

住所変更及び電話番号変更

Sparkling Eyes USA LLC (DBA:JPY)
新住所) 3415 S. Sepulveda Blvd.
Suite 1162
Los Angeles, CA 90034
☎ 310-881-2812

Sumikin Bussan Int'l Corp. CA Office
新住所) 16700 Valley View Ave.
Suite 280
La Mirada, CA 90638
☎ 714-367-3900

Delta Air Lines Inc.
新住所) 2785 Pacific Coast Hwy. Suite 306
Torrance, CA 90505
☎ 310-373-5608

ダウタウン地域部会

ダウタウン部会が賑やかに2012年度を締めくくる

文：AIG 橋本武士

去る3月8日金曜日夜、「ダウタウン部会期末総会及び懇親会」がダウタウンの新しいおしゃれなグルメスポットとして昨夏オープンした「LE KA」レストランで賑やかに開催された。

総会は渡辺副部会長の乾杯の挨拶に始まり、室井2012年度部会長から1年を振り返るパワーポイントのプレゼンテーションが紹介された。なかでも会員サービスの一環

として、月に1度のイベント開催を大々的に掲げて行われた文化、教育、スポーツ、グルメ等々、多種多様なイベントの紹介は、各担当委員も紹介されながら、笑いと共に大いに盛り上がった。1年の集大成として、実に15の会員サービスイベントに延べ500名以上の会員が参加したことになる。部会長の強力なリーダーシップの下、部会委員一同が楽しく一致団結した結果だ。無事故で

楽しい企画と運営に当たってくださった委員の皆様、ご苦勞様でした。そして何より、参加してサポートして下さった会員の皆様に一同より深く感謝いたします。

総会の後は、引き続き美味しいコースディナーに舌鼓を打ちながら、懇親会が和気あいあいと行われた。懇親会の最後にはドアプライズの抽選会が行われ、各会員企業から提供された景品が洩れなく参加者

全員56名に当たった。

最後に来年度の部会の新体制が発表され、松村新部会長から新任の抱負が披露され、総会と懇親会は大成功に終わった。



ドアプライズ協賛企業: AIG, Creative Enterprise Int'l, Ernst&Young, Japan Airlines, Kintetsu Enterprises, KPMG, Liner Grode Stein et al., Manufacturers Bank, Meiji Yasuda America, Mitsui&Co., Mizuho Corporate Bank, Nippon Life Insurance, Pillsbury Winthrop Shaw Pittman, Shizuoka Bank, Takenaka Partners, Tokio Marine Management, TOP Los Angeles, Union Bank

NORTHERN TRUST OPEN 観戦記

文：Mizuho Corporate Bank 松村智洋さん

常に天気の良いLAでも、比較的雨の日が多い2月ですが、この日はまさに快晴となった10日(日)、往年の名曲である「冬のロビエラ」ならぬ、「初夏」のようなロビエラ・カントリー・クラブにて行なわれた、JBAダウタウン部会主催のPGA Northern Trust Open (最終日)の観戦に行き参りました。

会場に到着し特設された入口を過ぎるや否や、私の歩いていたカート道近くに突然ゴルフボールが落下してきました。何が起きているのか訳がわからないまま立ちすくんでいた私の目の

前に、ほどなく何とフィル・ミケルソンが大勢のギャラリーを引き連れて颯爽と登場。難しいライから、何事もなかったように第2打目をグリーンに向かって超ナイスショット!いきなりPGAツアープロの華麗なる技を目の当たりにすることができました。

その後、練習場でルーク・ドナルドやセルヒオ・ガルシア等、世界に名立たる有名選手の練習風景を(自分のショットとの違いをまざまざと見せ付けられ...)ため息をつきながら見学した後、いよいよ石川遼選手のスタート時間

となり、一緒に18ホールを周ることにしました。日本ではいつも大観衆に囲まれてなかなか近くから見る事ができない石川選手のプレーですが、当地では幸運にも比較的ギャラリーが少ないため、各ホールのTeeショットなども間近で見ることができました。

横にいた米人ギャラリーが「Is he junior?」と聞いてくるほど、アメリカ人選手と比べ小柄で若く見える石川選手ですが、その一見華奢に見える体から繰り出すショットは非常に力強く、ドライバーは300ヤードを軽く超える飛

びを見せてくれました。

当日、石川選手はショットは良かったものの、結局パットで苦しんでしまい、残念ながら上位入賞はなりませんでしたが、私にとってはツアープロの迫力をナマで体感することのできる大変満足のいくゴルフ観戦となりました。今年よりPGAツアーに本格参戦した石川選手の今後益々の活躍を願いながら、会場を後にしたのであります。



「UCI Cooking Class For JBA」に参加して

文：Nihon Kohden America, Inc. 泉田文男さん夫人のあづみさん

春の暖かい陽射しが降り注いだ2月16日(土)、アメリカ人講師によるパイ作りに長女と参加しました。

シェフの白衣を着た若々しくて素敵な先生からパイ生地作りの手順を聞き、各テーブルの作業がスタートしました。

準備された材料や器具で、生地作りやそれぞれのパイの成型、メレンゲ作りなどの作業を自分

たちで行い、他はアシスタントさんが作ってくれたものを使って、アップルベリーパイ、パンチェッタを使ったキッシュロレーヌ、ベーコンを使ったミニキッシュロレーヌ、レモンメレンゲパイと2時間に4品も仕上げ、美味しく試食することが出来ました。

なぜか当初の予定だった通訳者が来ないままのクッキングクラスとなりましたが、講師の教え

方や進め方をはじめ、若いアシスタントさんたちがむしゃむしゃリンゴを食べながら作業している姿にはさすがアメリカだと笑ってしまうほど、全体的に良い意味でざっくり。パイだし、何か聞き逃しても大失敗することはないだろう！と、初対面の方たちとも打ち解け、楽しく協力しながら作業ができたと思います。

JBAのスタッフの方には、朝の



駐車場、私たちに代わって質問に走ってくださったりと、大変お世話になりました。

春には帰国し大学生となる娘も帰り道「なかなか楽しかったね！」と、母娘で良い思い出になりました。

ヘリテッジ資料館でのガーデニング体験と園内ツアー参加レポート

文：RICOH ELECTRONICS INC. 大瀧林威さん



3月11日(日)に行なわれた「ヘリテッジ資料館でのガーデニング体験と園内ツアー」に家族で参加しました。同館は、Corona市や91番フリーウェイの建設に携わった土木技師であるHiram Kellogg氏の旧私邸をボランティアの方々が修復・維持しながら一般

公開している施設です。

当日はまず旧Kellogg邸のツアーを行ないました。115年前に建てられたビクトリア調の建物には、エンジニアであったKellogg氏らしい機能的あるいは多分に趣味的なこだわりが随所に施され、男性というのは古今東西問わず似たような傾向を持つものだと微笑ましく思いました。

一方、キッチンやベッドルームは今となってはむしろモダンにも見える家具や道具が揃っており、女性陣からは「こんなキッチンで料理したい」「素敵な家具

の声が多く聞かれました。

また、発明後間もない頃の電話機や蓄音機などの展示物も実際に動かして見せてくれ、デジタル時代の子供にとっても非常に興味深いツアーとなったようです。

ツアーの後は同敷地内にある畑にて野菜の種植えを行ないました。小さな棒を使って穴を掘り、そこにコーン、かぼちゃなどの種を入れる作業を一行になっで行なうのですが、特に子供たちが泥まみれになりながら楽しんで作業をしている姿が印象的でした。

その後はやはり敷地内にある築山風のトレイルを簡単に散策し、最後に参加者でピクニックを行いました。この頃になると、子供たちはもう友達になっており、100歳を越える建物やそれを囲む庭園を使って仲良くかかれんぼをしておりました。

当日は夏時間初日のさわやかな好天に恵まれたこともあり、文化的・健康的な充実した時間を過ごすことができました。最後になりますが、本イベントを企画実行して頂きましたJBAに御礼申し上げます。

あさひ学園

2012年度、卒園・卒業式

あさひ学園事務局

平成24年度(2012年)の卒業式が、去る3月9日にサンタモニカ校、サンゲープル校、トランス校で、また10日にオレンジ校で行なわれた。幼稚部90名、小学部6年生126名、中学部3年生76名、高等部10名の計302名が晴れて卒業を迎えたが、幼稚部と小6はそのまま上級に進学する生徒がほとんどである。

卒業式は入学式と違い、それぞれが色々な思いを抱えてこの日を迎える。特に高等部・中学部の

卒業生は、この日を限りにもう逢えなくなる生徒もいるであろうし、また日本へ帰国する生徒とは一生不通になる生徒もいることだろう。

壇上で、学校長や派遣教頭から神妙な面持ちで、それぞれが卒業証書を受け取っていたが、たった一枚の卒業証書とはいえ、この証書にはさまざまな思いが込められていることだろう。特に高校生は11年間、中学生は9年間の喜びや苦悩が込められていることだ

ろうが、それも今はすべてが良き思い出となっているに違いない。

また、あさひ学園の教職員の中には、自分の子女をあさひ学園に通わせている先生もかなりいる。その中でも珍しかったのは、オレンジ校で理科を担当している荻窪先生が、小学部・中学部・高等部に自分の子供を3人卒業生として送ったことであった。(3人一緒にお祝いが出来て、ラッキーな面もあったが???)教職員とはいえ、3人を同時期に通わせること



は並大抵のことではない。この紙面を借りて、「お疲れ様！」の言葉を贈りたい。

この日を最後に、あさひ学園から巣立った高校生諸君、君たちの前途に素晴らしい夢と冒険が待ち構えていることを祈りたい。さあ、自由に旅立ちたまえ!

発行 : 南カリフォルニア日系企業協会 (JBA)
 編集 : JBA 企画広報部
 企画広報部長 : 前川武俊 (KPMG LLP)
 部会員 : 阿部ジェームス (Alston & Bird LLP)
 吉原一貴 (Deloitte Tohche Tohmatsu)
 濱本祐介 (Epson America, Inc.)
 吉野真市 (Ernst & Young LLP)
 八田重之 (HRM Patners, Inc.)
 森原 潔 (I-COM, LLC)
 黒田順子 (Interface in Design)
 高津良彦 (Japan Airlines Co., Ltd.)
 正田美和 (Jenner & Block LLP)
 大口利浩 (JTB USA, Inc.)
 須合浩司 (KDDI America, Inc.)
 山川有一 (Kintetsu Enterprises Co. of America)
 米本恭庸 (Kintetsu Int'l Express (USA), Inc.)
 山田崇文 (Kirin Brewery of America LLC)
 光永真久 (Liner Grode Stein etal. LLP)

三木幸平 (METRO SIGNS, INC.)
 菊池正博 (Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.) Inc.)
 松浦光芳 (Mizuho Corporate Bank, Ltd.)
 磯部広貴 (Nippon Life Insurance Co. of America)
 江口邦宏 (OYO Corporation U.S.A.)
 森上英明 (Sumitomo Electric U.S.A., Inc.)
 澤田敏夫 (Sumitomo Life Insurance Agency)
 林 隆人 (Tokio Marine Management, Inc.)
 吉山恭子 (Union Bank)
 岡野進一郎 (United Television Broadcasting Systems, Inc.)
 葉 英祿 (US Remac, Inc.)
 遠山明彦 (USJP BUSINESS ADVISORS)
 岡田良子 (Japan National Tourism Organization)
 宮崎貴哉 (JETRO, Los Angeles)
 三木昌子 (Lighthouse)
 (社名アルファベット順)

オブザーバー :
 制作協力 : Lighthouse

オレンジ・カウンティ地域部会

OC 部会期末報告懇親会報告

文 : Toshiba America Information Systems, Inc. 登原究さん

3月14日、Tustin Ranch Golf Clubで開催されたOC部会期末報告懇親会へ出席する機会を頂きました。出席は初めてのことでしたが、オレンジ群で活動する各企業や法律事務所、会計事務所、個人事業主など様々な業界の方々と交流でき、貴重な体験でした。

会合は笑いの絶えない和やかな雰囲気で行われました。中でも各社から提供された賞品の当たる抽選会は大いに盛り上がりました。当選者は賞品を受け取る際にマイクを向けられ、自己紹介や会社PR、自社製品の紹介など20秒のスピーチをすることになっていました。

抽選が中盤に差し掛かった頃、私にも賞品が当たりスピーチの番が回ってきましたが、なんとか

20秒以内でTOSHIBAの製品をPRし、賞品を受け取りながらほっとして席につきました。

会合の中でも特に印象に残ったのはJBAを紹介するビデオでした。アメリカに進出する日系企業やその駐在員に共通する課題への取り組み、アメリカ地域社会に貢献する日系企業の活動の紹介等、日本とアメリカとの架け橋となる活動を長年継続してきた歴史に感銘を受けました。日系企業の発展におけるJBAの存在感を知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。



サウスベイ地域部会

サウスベイ地域部会期末懇親会

文 : Pacific Guardian Life Insurance Company, Ltd. 小野和子さん

3月15日(金)、最近リニューアルオープンした、トランス・ダウンタウンにあるレトロなビストロ「1321 Downtown」2階のボールルームにて地域部会の懇親会を行いました。

参加者49名全員は入場早々、入り口で配られた「人名ビンゴゲーム」票を片手に名刺交換に熱が入りました。オープニングでは参加者全員が山内部会長の年間活動報告に熱心に耳を傾け、次期部会長の長谷川さんの音頭で乾杯。参加者有志の演奏するクラシックやジャズのピアノを聴きながら

美味しいアーティザン料理に舌鼓、会場はますます盛り上がりました。

宴たけなわで「人名ビンゴゲーム」に入り、歓声の中でドアサイズのドロ잉に進み、たくさんの賞品に会場は熱気に包まれました。今年は、ゴルフボール、食事券、クーラーバッグ、和菓子セット、ビール、ワイン、商品券、お米、シャープペンシルなどの賞品やおみやげが用意されました。今年も参加者全員がお土産をゲットしました。賞品をご提供くださいました各社様、ありがとうございました。



- Kirin Brewery of America, LLC
- Pacific Guardian Life Insurance Company, Ltd.
- Pentel of America, Ltd.
- Sumitomo Life Insurance Agency America, Inc.
- WDI International, Inc.
- YIT LA Inc

パシフィックリム・カンパニーベネフィット・プログラム 米国駐在員のための総合金融サービスパッケージ

三菱東京UFJ銀行の100%子会社であるユニオンバンクが自信をもってご提供する、米国駐在員の皆様向けのサービスです。


- 渡米前に日本からの口座開設が可能
- 便利な日本語コールセンター (フリーダイヤル・日本時間にも対応)
- ご帰国後の口座管理にも便利

まずは日本語フリーダイヤルまでお問い合わせください。1-888-507-7669

*このプログラムのご利用は会社登録をされた企業の駐在員に限られます。

Member FDIC ©2012 Union Bank, N.A. Visit us at unionbank.com/japanese

 **UnionBank®**
Invest in you®

 三菱東京UFJ銀行